

4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

浦賀上陸地支局

(昭和二十年十二月十九日)

史実調査参考資料報告

所在地		職官		摘要
所属部隊	海軍陸進基地第四大隊	氏名	階級	
支那事変以降ニ於ケル自己ノ略ヲ	海軍陸進基地第四大隊	陸軍大尉	陸軍大尉	職ノ変更及 主ナル参加 戦手名ヲ 記ス
所属部隊 編成年月日 及編制裝備 ノ概要	海軍陸進基地第四大隊	陸軍大尉	陸軍大尉	最終ノ所 属部隊ヲ 主ニ尚其 ノ以テ所 属部隊ノ 介テモ概記 ス
所属部隊 概	海軍陸進基地第四大隊	陸軍大尉	陸軍大尉	同部隊概要才一カニシテ 陸進基地第四大隊 昭和十九年六月五日浦賀縣宮島三陸直ニ海軍陸進部隊ヲ為シ其地設置ニ 從事時昭和十九年八月本基地設置業務完了ノ月十五日天候不良ニ因リ 連日高機空爆下ニ基地業務並ニ地上戦ヲ為シ準備ニ從事ス
終戦(又ハ主 力ノ戦手終 了)ノ状況	海軍陸進基地第四大隊	陸軍大尉	陸軍大尉	昭和二十年八月五日終戦ノ詔書ヲ拜シ一向街聖日ヲ奉戴シテ終戦ノ 業務ノ円滑ナルヲ期ス爾后食糧事情ノ逼迫ニ鑑ミ現地自給作業 並ニ駐留地ノ整備治安ニ當リト共ニ十月下旬以テ海歸邊ニ準備シ五月十日 米船ソクノード(ソリ)號ニテ宮島ヲ出発シ十月十七日朝浦賀上陸
帰郷(又ハ連 絡)ノ先	海軍陸進基地第四大隊	陸軍大尉	陸軍大尉	帰還輸送 ノ状況ヲモ 併記ス
其他ノ参 考事項	海軍陸進基地第四大隊	陸軍大尉	陸軍大尉	ナル

41

21.1.1
第一

44

浦賀上陸地支局

(昭和 年 月 日)

21.1.4

史実調査参考資料報告

所在地	沖繩縣宮古島	職官	通信班長	摘要
所屬部隊	海軍進基地支隊	氏名	陸軍大尉	終戦時ノモ ノヲ記ス
支那事変 以降ニ於ケル 自己ノ略シ	<p>昭和十七年七月一日少尉任官。當時歩四九隊隊留守隊ニ於テ支那 事変ニ勤務。昭和十七年八月十一日。昭和十七年十二月二十五日 中支ニ在リテ從軍(歩四九ヲ歩六七ニ轉属)本部備報係トシテ勤務 。昭和十七年一月十二日召集解除。昭和十九年八月二十六日。宇品 曉ヲ空面。部隊ハ應召(通信班長)。昭和十九年九月十五日以 降宮古島守備。昭和二十年八月十五日。終戦(宮古島) 。作務。即漢陽隊隊。春季院南隊。宣明隊。三河隊 。江南隊。漢水隊。予南隊。江山隊。以上 支那) 南面支隊。天号作戦(以上沖繩)</p>			
所屬部隊 編成年月日 及編制裝備 ノ概要	<p>歩六十七隊。昭和十七年七月一日編成 本部 歩三三大隊 通信隊 供養隊 昭和十九年八月二十五日編成完結 編成ニ本部(含通信班)定員 將校以下七名 勤務中隊三各定員將校以下七五六名(整備中隊 (將校以下十五名) 若備。小銃六八五 彈藥四四。其他地上 器材若干 通信器材 無線機一。電話機一 輕便車一組 昭和十九年九月十五日 沖繩縣宮古島ニ上陸直ニ挺身隊ノタメ 基地設定業務ニ從事。昭和二十年三月末ニ記完了 三月二十六日。天号作戦参加。在日 故空爆下 基地業 務如。地上戰ノタメ進備ニ從事ス</p>			
所屬部隊 戰經過ノ概 要	<p>八月十五日 終戦ノ詔書ヲ拜シ一同御聖旨ヲ奉作ニテ終戦 業務ノ四滑ナル遂行ヲ期シ。尔後復糧事情ノ逼迫ニ鑑 ミ現地自活作業ニ駐留地ノ修繕ヲ行ヒ。治安維持ニ 当リト共ニ土月下旬以降帰還ヲ準備シ。十二月十五日 米船リ キートン・ハリリー号ニシテ宮古島出發。十二月十七日 浦賀ニ 上陸ス</p>			
終戦(又ハ主 力ノ戦ヲ終 了)後ノ状況	<p>八月十五日 終戦ノ詔書ヲ拜シ一同御聖旨ヲ奉作ニテ終戦 業務ノ四滑ナル遂行ヲ期シ。尔後復糧事情ノ逼迫ニ鑑 ミ現地自活作業ニ駐留地ノ修繕ヲ行ヒ。治安維持ニ 当リト共ニ土月下旬以降帰還ヲ準備シ。十二月十五日 米船リ キートン・ハリリー号ニシテ宮古島出發。十二月十七日 浦賀ニ 上陸ス</p>			
帰郷(又ハ連 絡)先	<p>終戦時ノモ ノヲ記ス</p>			
其他ノ参 考事項	<p>終戦時ノモ ノヲ記ス</p>			

浦賀上陸地支局

(昭和 年 月 日)

史実調査参考資料報告

所在地	所属部隊	職官 氏名	備考
其他(参 考事項)	終戦(又八五 力)戦終 了(終)状況	大隊本部指揮班長 佐野大尉	終戦時1モ ノヲ記ス
帰郷(又八連 船)先	昭和二十年八月十五日終戦、翌朝、船中、同僚、皆、自、ら、奉、命、で、歸、郷、す。船中、同僚、皆、自、ら、奉、命、で、歸、郷、す。船中、同僚、皆、自、ら、奉、命、で、歸、郷、す。	[Redacted]	[Redacted]
所屬部隊、 編成年月日 及編制裝備 概要	昭和十九年九月十五日浦賀上陸、翌朝、同僚、皆、自、ら、奉、命、で、歸、郷、す。船中、同僚、皆、自、ら、奉、命、で、歸、郷、す。船中、同僚、皆、自、ら、奉、命、で、歸、郷、す。	[Redacted]	[Redacted]
所屬部隊、 編成年月日 及編制裝備 概要	昭和十九年九月十五日浦賀上陸、翌朝、同僚、皆、自、ら、奉、命、で、歸、郷、す。船中、同僚、皆、自、ら、奉、命、で、歸、郷、す。船中、同僚、皆、自、ら、奉、命、で、歸、郷、す。	[Redacted]	[Redacted]
所屬部隊、 編成年月日 及編制裝備 概要	昭和十九年九月十五日浦賀上陸、翌朝、同僚、皆、自、ら、奉、命、で、歸、郷、す。船中、同僚、皆、自、ら、奉、命、で、歸、郷、す。船中、同僚、皆、自、ら、奉、命、で、歸、郷、す。	[Redacted]	[Redacted]
所屬部隊、 編成年月日 及編制裝備 概要	昭和十九年九月十五日浦賀上陸、翌朝、同僚、皆、自、ら、奉、命、で、歸、郷、す。船中、同僚、皆、自、ら、奉、命、で、歸、郷、す。船中、同僚、皆、自、ら、奉、命、で、歸、郷、す。	[Redacted]	[Redacted]

21.1

浦賀上陸地支局

(昭和二十年十月十九日)

交付 21.1.4 課

実地調査参考資料報告

所在地

沖繩縣宮古島

職官

陸軍少尉

摘要

所属部隊

海上機進基地第四大隊

氏名

[Redacted Name]

終戦時ノモ
ノヲ記ス

支那事変
以降ニ於テ
自己ノ略ヲ

昭和十九年八月三日迄臨時東京第一陸軍病院
勤務昭和十八年四月七日解除 同十九年八月二十六日
宇留腹六四〇部隊ニ属シ 九月十五日以降宮古島
ニテ勤務昭和二十年八月十五日終戦(宮古島)現在ニ
至ル

職ノ変更及
至タル参加
戦手名ヲ
記ス

所属部隊
編成年月日
及編制裝備
ノ概要

昭和十九年八月三十日編成完了 編成ニ本部
(各通信班)定員將校以下七七名 勤務中隊ニ
(各定員將校以下七五五名)整備中隊(將校以下五五五
名)備備ニ小銃六八五 彈藥六四〇名 基地七工器打
若干 通信器材無線 由四 電話器六 輕修理
車一組

最終ノ所
属部隊ヲ
主ニ尚其
ノ以テノ所
属部隊ノ
分ヲモ
ノヲ記ス

所属部隊
戦經過
ノ概要

昭和十九年九月十五日沖繩縣宮古島ニ上陸
直ニ進進 戦隊ノシテ基地設定業務ニ
従事 昭和二十年末上陸完了
三月二十六日天呂作戦参加 連日敵空
爆下基地業務站ニ地上戦斗ノシテ
準備ニ従事ス

終戦(又ハ主
力ノ戦ヲ終
了)後ノ状況

八月十五日終戦ノ詔書ヲ持シ一日御聖旨ヲ
奉ルニ終戦業務ノ自辦ナルニ遂行ヲ期シ
爾后倉糧事情ノ逼迫ニ由リ現地自給作業
ニ駐留地ノ敷地ヲ濫用シテ自給ニシテ十月下
旬ニ降参退準備ニ十月十一日米糧ヲ共ニ十月下
リノ号ニヨリ宮古島ニ十月十七日神機ニ上陸ス

帰還輸送
ノ状況ヲモ
ノヲ記ス

帰郷(又ハ連
絡)先

[Redacted]

其他ノ参
考事項

數日後移轉先
静岡市栄町一ノ三 救病院

浦賀上陸地支局

(昭和貳拾年十二月十八日)

実地調査参考資料報告

所在地		職官		備考
浦賀縣宮古島		氏名	階級	
所屬部隊	海上挺進基也第四大隊	陸軍大尉	[Redacted]	職務変更及 主たる参加 戦手名ヲ 記入ス
支那事変 以降ニ於テ 自己ノ略	昭和十九年八月 編成本部(通信班ヲ含ム)定員將校以下七七名 勤務中隊三名隊定員將校以下二五二名)七五六名 整備中隊(將校以下六五名) 整備小隊六八五挺 彈藥六四〇〇発 其他工兵器械若干 通信器材(無線電機四三台機二) 有線電話機六 輕修理車一	昭和十九年九月十五日浦賀縣宮古島上陸直ニ海上挺進隊ヲ 爲シ其地ニ駐ルニ任ズ昭和二十年二月末某地ニ被テ業務ヲ 三月二十三日ヨリ天候ノ故ニ終ルニ至ルニ至ルニ業務ヲ 此ニ終ルニ爲シ準備ニ從事ス	昭和十九年八月十五日終戦ノ報ヲ得テ一月間駐留シテ シテ終戦業務ヲ内滑ルルニ遂行シ朔々明月食糧事情ノ逼迫ニ 關シ復々自備作業並ニ駐留地ノ警備ヲ維持シタル事 十一月下旬以降歸還ニ準備シ十二月十七日朝浦賀上陸 後ニテ宮古島ヲ去リ十二月十七日朝浦賀上陸	最終ノ所 屬部隊ヲ 主ニ尚其 以テ所 屬部隊ノ 介テ之概記 ス
所屬部隊 編成年月日 及編制裝備 ノ概要	終戦(又ハ五 力ノ戦ヲ終 了)ノ状況	歸郷(又ハ連 絡)ノ先	其他ノ参 考事項	歸還輸送 ノ状況ヲモ 併記ス

21.1.4
第一

補償上陸地支局

(昭和貳拾年十二月十八日)

21.1.4

史実調査参考資料報告

所在地	沖繩縣宮古島	職官 第一勤務中隊尉	摘要
所屬部隊	海上挺進基地第四大隊	氏名 陸軍大尉	終戦時ノモ ノヲ記ス
支那事変以降ノ自己ノ略	自昭和十五年五月 至昭和十五年六月 自昭和十五年三月 至昭和十五年六月 自昭和十五年六月 至昭和十五年八月 今除州作戦ニ参加 自昭和十四年一月 至昭和十五年三月 南昌攻略戦ニ参加	職ノ変更及 五ノル参加 戦年名ヲ 記ス	
所屬部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要	昭和十九年八月卅一日編成完了 編成中隊ノ通信班ノ員三名 勤務中隊ノ各隊員ノ員數將校以下二五二名(七六六名) 整備中隊ノ將校以下六五名 整備中隊ノ銃六八五挺彈藥六四〇〇挺 其他兵器若干通信機若無線五号機四号機六一 有線電話機六挺修理車一	最新ノ所 屬部隊ノ 五ニノ尚其 以テノ所 屬部隊ノ 介テノ概要 又	
所屬部隊ノ戦經過ノ概要	昭和十九年九月十五日沖繩縣宮古島上陸直ニ海軍挺進 隊ノ為メ基地改定業務ニ従事昭和十九年十一月末基地 改定業務完了十二月廿六日ノ天守作戦参加連日敵機 ノ空爆下基地業務五五地改定ノ為メ準備ニ従事ス		
終戦ノ又ハ主力ノ戦終了ノ状況	昭和二十年八月十日夜終戦ノ詔書ヲ得テ同御聖旨ヲ奉 戴シ終戦業務ノ以テ連日連日ノ業務ノ進行ニ従事 連日自居ノ業務ノ進行ニ従事連日ノ業務ノ進行ニ従事 十一月下旬自居ノ業務ノ進行ニ従事連日ノ業務ノ進行ニ従事 十一月下旬自居ノ業務ノ進行ニ従事連日ノ業務ノ進行ニ従事	帰還輸送 ノ状況ヲ 併記ス	
帰郷ノ又ハ連絡ノ先			
其他ノ参考事項			

M

史實調査參考資料報告

摘要

所屬部隊 (固有名)	全右所在地	職官 氏名	終戦時ノモノヲ 記ス
海軍進軍地中隊	宮古島	大隊本部附 陸軍少尉	職ノ變更及主ナル 參加戰團名ヲ 記ス
支那事變以降ニ 於ケル自己ノ略 歴	(一) 昭和四年四月三日安東第一聯隊ニ加入。昭和五年七月 廿五日安東第一聯隊ニ轉属。北却陣印作戦の断東不 作戦。③ 滿州工作。④ マン作戦ニ參加。昭和九年一月二十日 滿北マニシテ諸島ニ帰還。召集解除。 (二) 昭和十九年八月十六日大島海上陸軍進軍地中隊ニ加入。戦時服務 (三) 昭和十九年八月二十日編成 (四) 大島内編成。中隊整備中隊 小銃整備		
所在部隊ノ編成 年月日及編制裝 備ノ概要	自昭和十九年九月十五日。至昭和二十年三月二十日 宮古島在島其地役之勤務 自昭和二十年三月二十日。至三月二十日 宮古島ニ於テ天号作戦ニ參加 三月二十日以降。宮古島駐留		
所屬部隊作戦經 過ノ概要	引続キ之右島勤務 十一月二十日。宮古島中隊。若船三隻。吐瀉病 打撃中隊。十一月二十三日。全島出陣 三月二十七日。浦加上陸		
終戦(又ハ主力 ノ戰團終了) 後ノ概況	歸還輸送ノ状況 フニ併記ス		
歸郷(又ハ連絡) 先	[Redacted]		
其ノ他ノ參考事 項	[Redacted]		
備考	將校ニ記載セシメ第一復員省史實部ニ送付ス		

60

60

史實調査參考資料報告

摘要

所屬(固有名) 海上挺進基地第四大隊

職官 陸軍大尉 小隊長

終戦時ノモノヲ記ス

全右所在地 宮古島

氏名

記ス

支那事變以降ニ於ケル自己ノ略歴

(1) 昭和十三年十月十日官安兵隊ニ入隊ニ付
中隊附 比支派遣隊 兵團卜行ヲ告ニ十二月
哈五省着降遺 務後 哈五省ニ駐 國境
邊 邊
(2) 昭和十三年八月二十日官古島駐一部隊ニ中隊附

職ノ變更及主ナル參加戰團名ヲ記ス

所在部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要

(1) 昭和十三年八月二十日編成
(2) 左隊内編成
三動隊中隊卜 動隊中隊
ハ 裝備 十銃

最後ノ所屬部隊ヲ主ニシ向ソノ以前ノ所屬部隊ノ分ヲモ併記ス

所屬部隊作戰經過ノ概要

昭和十三年九月十五日 昭和十三年十月十五日
進宮古島 比支派遣隊 兵團卜行ニ付
昭和十三年三月二十日 官古島駐一部隊
天早 官古島駐一部隊
官古島駐一部隊

以前ノ所屬部隊ノ分ヲモ併記ス

終戦(又ハ主力ノ戰團終了)後ノ概況

引揚キ宮古島勤務
十月二十日 官古島駐一部隊 中隊
十一月二十日 官古島駐一部隊 中隊
十二月二十日 官古島駐一部隊 中隊

歸還輸送ノ狀況ヲモ併記ス

先 歸郷(又ハ連絡)

其ノ他ノ參考事項

備考

將校ニ記載セシメ第一復員省史實部ニ送付ス

史實調査參考資料報告

摘要

所屬部隊
(固有名称)

海上挺進基地第四大隊

職官

本部隊

全右所在地

宮古島

氏名

[Redacted Name]

終戦時ノモノヲ
記ス

支那事變以降ニ
於ケル自己ノ略
歴

昭和十六年八月三日朝鮮聯合軍第三部隊召集
昭和十八年二月七日解隊
昭和十九年八月二十七日解隊
昭和二十一年三月三十日復員

職ノ變更及主ナル
参加戦闘名ヲ
記ス

所在部隊ノ編成
年月日及編制裝
備ノ概要

昭和十九年八月三十日編成
大隊内編成 中隊 定員 二五名 (持銃四)
中隊 定員 二〇名 (持銃六)
整備中隊 整備中隊
整備中隊

所屬部隊作戦經
過ノ概要

昭和十九年九月十日より昭和二十年三月三十日まで
宮古島附近守備並に基地設置業務
昭和二十年三月二十三日より三月三十日まで
天号作戦(宮古島守備)ニ
三月三十日以後宮古島附近守備

最後ノ所屬部隊
ヲ主ニシ向ソノ
以前ノ所屬部隊
ノ分ヲモ概記ス

終戦(又ハ主力
ノ戦闘終了)
後ノ概況

引渡宮古島駐留
十二月二十日宮古島出陣 船中沖絶本島上陸
十二月二十七日 昭和二十一年三月三十日合名出陣
三月二十七日浦賀上陸

歸還輸送ノ状況
ヲモ併記ス

先
歸郷(又ハ連絡)

其ノ他ノ參考事
項

備考

將校ニ記載セシメ第一復員省史實部ニ送付ス

62

62

史實調査參考資料報告

摘要

所屬部隊(固有名称)	全右所在地	支那事變以降ニ於ケル自己ノ略歴	所在部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要	所屬部隊作戦經過ノ概要	終戦(又ハ主力ノ戦闘終了)後ノ概況	先歸郷(又ハ連絡)	其ノ他ノ參考事項	備考
海上機進基地本部 宮古島	氏名	昭和三十二年十月十六日古島に聯隊ニ應召 昭和三十二年七月一日より後備隊本部連給機將校 昭和三十二年七月二十日中支那出征 昭和三十二年一月二十日独立混成旅團司令部附 昭和三十二年五月十日古島中支那隊司令部附 昭和三十九年八月二十六日海上機進基地本部四大隊ニ應召	昭和三十九年八月三十一日編成完了 裝備 小銃	昭和三十九年九月十五日ヨリ昭和三十二年八月九日迄 宮古島附近守備並ニ基地施設作業 昭和三十二年三月十六日より六月二十日迄 天号作戦 六月二十日以降宮古島守備	終戦後ハ自活農耕ヲ事ス 歸還輸送ハ米船ナルニ給テハ良好ナリ			將校ニ記載セシメ第一復員省史實部ニ送付ス
終戦時ノモノヲ記ス		職ノ變更及主ナル參加戦闘名ヲ記ス	最後ノ所屬部隊ヲ主ニシ向ソノ以前ノ所屬部隊ノ分ヲモ概記ス	歸還輸送ノ狀況ヲモ併記ス				

65

65